



デザインギャラリー展覧会開催のお知らせ

「怪獣と 20 世紀の夢

開田裕治展～21 世紀につなぐ幻想とロマンの系譜」展

2007 年 2 月 24 日（土）～4 月 8 日（日）

開場時間：午前 10 時から午後 6 時まで（金・土曜日は午後 8 時まで）

閉場日：毎週月曜日

金沢 21 世紀美術館（館長：蓑 豊、所在地：石川県金沢市広坂 1-2-1）デザインギャラリーでは、本年 2 月 24 日（土）から 4 月 8 日（日）まで、「怪獣と 20 世紀の夢 開田裕治展～21 世紀につなぐ幻想とロマンの系譜」展を開催いたしますので、お知らせいたします。



展覧会概要

- 展覧会名称：「怪獣と20世紀の夢 開田裕治展～21世紀につなぐ幻想とロマンの系譜」
- 会期：2007年2月24日(土)～4月8日(日)
休場日：毎週月曜日
- 開場時間：10時～18時(金・土曜日は20時まで)
- 料金：無料
- 会場：金沢21世紀美術館 デザインギャラリー/シアター21
- 出品点数：43点(絵画、イラストレーションなど)
※ 会期中展示替えあり
前期2月24日～3月25日、後期3月27日～4月8日(予定)
- 主催：金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]
- 協賛：金沢白鳥路ホテル、郷土料理の宿さんなみ、株式会社バンダイ、富士見書房、ProjectBLUE
- 協力：角川ヘラルド映画株式会社、株式会社サンライズ、株式会社創通エージェンシー、株式会社タカラトミー、株式会社円谷プロダクション、東宝株式会社、ヘッドギア、リビングハウス食器の丸一

本企画の特徴

①パッケージアートの魅力を紹介

例えばプラモデルは、その箱に描かれた絵からこれから作られるものを想像し、そのプラモデルを手に入れるかどうか決定されます。そこでは本来脇役であった怪獣やメカが主役なのです。そのためプラモデルの箱絵、すなわちパッケージアートの世界では、新たなドラマを構築し、新たな世界を作り出さねばなりません。よりドラマチックに、より幻想的に、より魅惑的に、パッケージアートは、その中に治められたものの魅力を最大限に引き出すものなのです。今回の展覧会では、パッケージアートだからこそ表現できる新たな世界を紹介します。

②イラストレーター開田裕治のオリジナリティを分析

戦車や飛行機などのパッケージアートを手がけた小松崎茂を第一世代とすると、特撮やアニメーションのキャラクターがプラモデルの人気を独占するようになった時代にパッケージアートで活躍した開田裕治は第二世代と言えます。絵画的なイラストレーションではなく、幻想としてのリアリティを追求する彼のパッケージアートは、その色彩と質感表現に特徴があります。展覧会では、この第二世代のパッケージアーティストを代表する開田裕治のオリジナリティに迫ります。

③開田裕治の描く世界を映像やトークショーから多角的にアプローチ

開田裕治の絵の魅力は、映画やアニメーションなどすでに作られた作品に、さらにリアリティが加味され、リプロダクトされることです。本展ではシアター21やレクチャーホールを会場に、クラシックアニメの上映や紙芝居、講演、トークショーなども展開。講演等で開田裕治の魅力を存分に伝えるとともに、その背景にある20世紀の幻想とユートピアの思想を掘り下げます。

展覧会について

「怪獣と 20 世紀の夢 開田裕治展～21 世紀につなぐ幻想とロマンの系譜～」

開田裕治はパッケージアーティストである。プラモデルは、箱に描かれた絵から想像され、それを手に入れるかどうかが決まされる。そこでは脇役であった怪獣やメカが主役となって新たなドラマが構築される。よりドラマチックに、より幻想的に、より魅惑的に、パッケージアートはその中に収められたものの魅力を最大限に引き出すものである。パッケージアートだから表現できる世界がそこにある。

パッケージアートの世界は、戦車や飛行機など手がけた小松崎茂を第一人者とし、今日では特撮やアニメーションのキャラクターがその主流を占める。なかでも開田裕治は映像の世界をはるかに凌駕した魅惑の幻想世界をリアルに描写する、今を代表するパッケージアーティストだといえる。絵画的なイラストレーションではなく、幻想としてリアリティを追求する開田裕治のパッケージアートは、光と影を効果的に配したその色彩と質感表現に特徴がある。怪獣たちの空想のドラマを描き出すパッケージアーティスト、開田裕治のオリジナリティに迫る。

会期：2007年2月24日（土）～4月8日（日）

10：00～18：00（金・土曜日は20：00まで）

会場：デザインギャラリー

入場無料

空想としての怪獣

空想する事は人間だけに与えられた特権です。

古代より人間はこの世に存在しない様々な生き物の姿を空想の中から紡ぎ出してきました。

人智を越えた存在として、あるいは人を戒める神の代行者として、ドラゴンは火を吐いて空を舞い、麒麟は千年の時を生きて地を走り、舟幽霊は柄杓で海水を汲み漁船を沈めてきたのです。

近代になり鉄とガラスの大都会が出現した 20 世紀になると、空想の怪物達は「怪獣」という新たなカテゴリーを得て爆発的にその眷属を増やしました。

どれほど怪獣馬鹿、もとい、怪獣博士を自認する人であっても、現在までにテレビやスクリーンに登場したすべての怪獣の名前を諳んじられる人は、おそらくいないでしょう。

なぜ人はこれほど多くの怪獣を想像し、キャラクターとして造形してきたのでしょうか？

そう、怪獣はただ大きくて変わった形をしてビルを壊す迷惑なだけの生物では無いのです。

空想によって産み出された怪獣は、見る人を刺激して更に新たな空想を産み出させるのです。

何でこんなにでかいのだ。こいつはどこから来てどこに行くのだ。こいつが街の中を歩く様はどんなだろう。夜の石油コンビナートにはこいつが絶対お似合いだ。ビルの影からこいつが姿を現したらどんなにか恐ろしいだろう。等々。

それはまったく持って何の役にもたたない空想ですが、空想が人間の特権であるならば、役に立たない空想こそもっとも人間的な空想と言えるのではないのでしょうか。

私も怪獣イラストレーターとして数多くの作品を描いてきましたが、私の絵を見ても腹がふくれるわけでも寒さがしのげるわけでもなく、これもまた何の役にもたたない空想の産物です。

でも何故か私の怪獣画は全てクライアントが作成を依頼してきた商業美術作品であり、プラモデルやビデオソフトのパッケージとして、壁を飾るポスターとして世間のお役に立ち、対価を産んで私の生活を支えてくれているのです。

空想も役に立つ！

どうか世にも珍しい役に立つ私の空想を見てやってください。

そして、ほんの少しでも空想する楽しさに触れていただけたならば、私はとても嬉しくなるのです。

開田裕治

展示作品

01. GODZILLA EVOLUTION (デジタルイメージ)
02. ゴジラ伝説 (アナログイメージ)
03. ゴジラ上陸 (アナログイメージ)
04. ゴジラ (アナログイメージ)
05. ゴジラ対アンギラス (デジタルイメージ)
06. 魔獣降臨 (アナログイメージ)
07. 南海の大怪獣 (アナログイメージ)
08. 鬼哭 (デジタルイメージ)
09. フランケンシュタイン対地底怪獣 (アナログイメージ)
10. モスラ (アナログイメージ)
11. 海底軍艦 (アナログイメージ)
12. モゲラ (アナログイメージ)
13. ナメゴン (アナログイメージ)
14. ペギラ (アナログイメージ)
15. カネゴン (アナログイメージ)
16. ミイラの叫び (アナログイメージ)
17. 凍れる夜 (アナログイメージ)
18. 来訪者・ウルトラマン (アナログイメージ)
19. 死闘 又は グドンVSツインテール (アナログイメージ)
20. 守護者・ウルトラマン (アナログイメージ)
21. 大怪獣バトル (デジタルイメージ)
22. 最後の希望・災いの影 (アナログイメージ)
23. 灼熱のガメラ (アナログイメージ)
24. 逆襲のシャア (デジタルイメージ)
25. ズゴックの爪 (アナログイメージ)
26. 急襲のコロニー (アナログイメージ)
27. アレックス ガンダム (アナログイメージ)
28. ビギナ・ギナ (アナログイメージ)
29. ガンダム F-91 (アナログイメージ)
30. ベルガギロス (アナログイメージ)
31. V-ガンダム (アナログイメージ)
32. 東京を撃つ者 (デジタルイメージ)
33. レイバー対レイバー (アナログイメージ)
34. ファントム (アナログイメージ)
35. ビランビー・出撃 (アナログイメージ)
36. ビルバイン (アナログイメージ)
37. ズワース (アナログイメージ)
38. ワームタンクの襲来 (デジタルイメージ)
39. DESTROY ALL HUMANS! (デジタルイメージ)
40. 月光獣フェンリル (デジタルイメージ)
41. アイアンコングイエティ (デジタルイメージ)
42. キャノニアーゴルドス (デジタルイメージ)
43. デススティングー (デジタルイメージ)

※上記は、2007年1月15日現在、展示が予定されている作品です。

関連企画

① オープニング企画 「開田夫婦漫才形式社会科見学と小谷真理トーク」

- 日時:2007年2月24日(土) 14:00 - 17:00
- 会場:レクチャーホール
- 料金:入場無料(当日10:00より整理券配布)
- 出演:開田裕治、開田あや、小谷真理

開田夫婦漫才形式社会科見学

開田夫婦が最近熱心に取り組んでいるのが「大人の社会科見学」です。それは、巨大工場現場や特殊な建築物、企業や公共団体が管理運営している施設や研究所等々、我々のすぐ身近にありながら、滅多に見る機会のない「現場」を見学すること。そこには日常生活では出会うことの出来ない刺激的で魅力的な機械、空間、構造物、そして人々がいます。日々暮らしている私たちの生活、社会、そして世界は何によって、どの様に支えられているのか。そのために働き、研究し、勤めている人達は何をを考え何を為そうとしているのか。開田夫婦が訪問した様々な現場で見てきたもの、感動したもの的一端をお見せしたいと思います。

小谷真理トーク

開田裕治がこれまで取り組んできたSF、アニメ、特撮といったジャンルは、男性のみの世界ではありません。男性性、女性性が複雑に絡み合った、複雑で豊穡な世界です。SF、ファンタジー評論家として、またサイボーグフェミニストとして知られる小谷真理が、SFアニメ、特撮におけるエロスとジェンダーについて語り、女性の視点から「怪獣と20世紀の夢」を補完します。

② 「幻想とユートピア—怪獣映画の魅力を探る」

唐沢俊一講演『怪獣と20世紀の夢』

怪獣映画という特異なジャンル映画の裏にはどのようなメッセージが隠されているのか。2回シリーズでアニメ、紙芝居という手法で描かれた怪獣の姿をキーに、20世紀の大いなる幻影“怪獣映画”を読み解いていきます。

- 会場:金沢21世紀美術館シアター21
- 料金(各回):一般前売 1,000円 当日1,200円
- 前売券取扱い:金沢21世紀美術館ミュージアムショップ、チケットぴあ(Pコード552-800)
チケット発売 2007年2月3日(土)

第一回 3月24日(土)16:00～

『クラシック・アニメの幻想世界』アニメ上映+講演

アニメ上映作品(全てビデオ上映となります)

- ・ウインザー・マッケイ『ペット』(1921)
- ・アレクサンドル・アレクセイエフ『禿山の一夜』(1933)
- ・ウィリス・オブライエン『キング・コング』(部分)(1933)
- ・フライシャー兄弟『ペティの白雪姫』(1933)
- ・スタレーヴィチ『マスコット』(部分)(1934)
- ・マーブ・ニューランド『バンビ・ミーツ・ゴジラ』(1969)

講演『都市と怪獣の人間学～なぜゴジラはビルを壊すのか』

怪獣映画とは、という定義に、“怪物が現れてビルを壊す映画”と言い切ってもそう間違いではないくらい、都市と怪獣は切っても切れない関係にある。怪獣映画において、そこに描かれる都会は、果たして、ただ単に破壊され蹂躪される役割しか果たしていないのだろうか? 都市の魅力と不気味さを怪獣映画を通して読み解いてみよう。

第二回 4月7日(土)16:00～

『下町の幻想世界』紙芝居口演＋講演

紙芝居『原子怪物ガニラ』口演・旭堂南湖

旭堂南湖 1973年兵庫県生まれ。99年三代目旭堂南陵に入門、古典講談の継承の他、明治時代の探偵講談を復活させる活動を行い、江戸川乱歩、海野十三などの作品を講談にして高座にかけている。平成十四年度「大阪舞台芸術新人賞」受賞、“上方講談のニューウェーブ”として期待が高まっている。04年から、手塚治虫と共に名作『新宝島』を書いた酒井七馬が左久良五郎名義で発表した紙芝居、『原子怪物ガニラ』を発掘、高座にかけて人気を博している。

講演『三丁目の怪獣～高度経済成長と怪獣ブーム』

かつて下町の娯楽の王者だった紙芝居には、さまざまな怪獣たちが姿を見せていた。やがて、それらの怪獣たちは、庶民の生活レベルが上がっていくのと同時に、紙芝居からスクリーンに、そしてブラウン管にと、その住み処を移していく。日本の高度経済成長と怪獣映画の知られざる関係を読み解く。

③「オリジナル怪獣絵コンテスト」

あなたが生み出したオリジナルの怪獣を描いてみてください。開田裕治さんが審査いたします。

【応募要項】

- 対象：おとなから子どもまで。ただし、審査は子ども部門（～中学生まで）、おとな部門(高校生以上)に分かれてそれぞれ審査します。
- 応募方法：画材はなんでも結構です。A3サイズまでの大きさの紙に自分で考えたオリジナルの怪獣を自由に描き、その怪獣の名前と100字程度の説明をつけて、金沢21世紀美術館交流課まで持参か、ご郵送ください。
- 審査員：開田裕治、唐沢俊一
- 応募締切：2007年3月20日（火）17時必着
- 展示：2007年4月8日（土）・9日（日）シアター21 ホワイエ

作家、講演者プロフィール

●開田 裕治

1953年兵庫県生まれ。京都市立芸術大学卒業。イラストレーター。東京在住。
子どもの頃から怪獣映画、特撮映画が大好きで、美大在学中から怪獣映画を中心にした同人誌活動を開始。卒業後は東京に居を構え、ファン活動で得たコネクションからイラストレーターとしての仕事を得てプロデビュー。主に怪獣やロボット等のキャラクターイラストを雑誌、単行本、ポスター、プラモデルパッケージや映像ソフト、音楽ソフトのパッケージ等のために制作する。1995年公開の『ガメラ 大怪獣空中決戦』に衝撃を受けて同人誌熱が再燃。以降、コミックマーケットにサークル「ガメラが来た」で参加し、同人誌「特撮が来た」を主宰。現在に至る。

○主な仕事 ガンダムシリーズのプラモデルパッケージ、約100点を制作。ウルトラシリーズなどの特撮作品の映像ソフトパッケージ、百数十点制作。東京国際ファンタスティック映画祭ポスター制作(第4回、第15回)。雑誌「宇宙船」表紙イラストを創刊号から8年間担当。劇団☆新感線『ゴローにおまかせ3』ポスターイラスト制作。その他、アニメや特撮映像作品のキャラクターイラストレーションを多数手掛ける。

ホームページ 開田無法地帯 <http://home.att.ne.jp/green/kaida/>

●開田 あや

千葉県出身。官能小説作家。オタク系雑文ライター。

コミケで「うる星やつら」のランちゃんのコスプレをされていて開田裕治と知り合い結婚。女性下着の販売員から、オタク系のライターになり、現在は官能小説の執筆が主な仕事。「開田無法地帯」のサークル名でコミケに参加。オタク仲間達とオタクな旅の同人誌「ぶらりオタク旅」を主宰・発行している。

●小谷真理

1958年富山生まれ。SF & ファンタジー評論家。日本SF作家クラブ会員。

著書『女性状無意識』(勁草書房)で94年度日本SF大賞受賞。共訳書『サイボーグ・フェミニズム』(ダナ・ハラウェイほか、水声社)で91年度日本翻訳大賞思想部門受賞。ほかの著作は、『テクノゴシック』(集英社)、『星のカギ、魔法の小箱』(中央公論新社)など。現在、<日本経済新聞>(水曜読書欄)で「目利きが選ぶ三冊」を連載中。

●唐沢俊一

1957年、札幌生まれ。作家、評論家。

怪獣映画、アニメ作品など、昭和高度経済成長下における映像文化を通して日本を語ることをライフワークとしている。トンデモ本の収集・研究を行う団体『と学会』の創設・運営会員であり、また『トリビアの泉』『世界一受けたい授業』などの人気番組で雑学のオーソリティとしても活躍中。著書に『ガメラ創世記』『B級学』『トンデモ一行知識の世界』など。現在までにその著作は100冊以上。

本資料に関するお問い合わせ

金沢 21 世紀美術館

広報担当: 江藤・岡田

TEL: 076-220-2800

FAX: 076-220-2802

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

<http://www.kanazawa21.jp>

E-mail: press@kanazawa21.jp

※展覧会の作品写真、美術館の写真などは上記へお問い合わせください。